

単元名 Let's talk about our culture!

テーマ 遠隔授業

本単元で育成する資質・能力

コミュニケーション能力、主体性・積極性

本質的な問い

海外の人とコミュニケーションを図るために必要なことは何だろう。

単元を貫く問い

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、既習の語句や文を用いて伝えたり、

相手からの質問に答えたりして会話を継続・発展させるにはどうすればいいだろう。

1 日時 令和4年11月9日(水) 11:55~12:45

2 生徒数 男子4名 女子13名 計17名

3 単元について

## 【単元観】

本単元は学習指導要領(3)話すこと「やり取り」のイ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。」を受けて設定する。

教科書では海斗とメグが日本の伝統工芸や文化に取り組む外国人を紹介する場面から、皆で講演に行く場面へと展開する。言語材料としては、代名詞の目的格と所有代名詞、Which...?/Whose...?を含む文が扱われている。第三者についてその人がどんな人かをたずねたり答えたりする活動を通して実際のコミュニケーション能力を高めることができる単元である。

単元のまとめとしてオーストラリアで日本語を勉強している生徒に日本やわが町の文化や特徴について伝える機会を設定することで主体性・積極性を伸ばすことが期待できる。

## 【生徒観】

本学級の生徒は、異文化への興味・関心をもっており、アンケートにおいて「ALTや外国の人と即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え、やり取りをしたい」と回答した生徒が約7割いる。また、先月のYeppoon校との交流の振り返りで43%の生徒がもっと「やり取り」をスムーズに続けたかったと回答している。

これまで第三者について紹介したり、たずねたりする活動を行っており、文法事項の三人称単数現在形については理解している。既習の疑問詞を使って即答練習を繰り返したり、ALTとの授業では即興での「やり取り」やリテリング活動を多く取り入れたりしてきた。会話を継続するためには、相手の言ったことを繰り返し、リアクションワードを効果的に使うことが大切であると理解している。しかし、英語の文構造や文法を理解することを苦手だと感じている生徒もいる。

## 【指導観】

本単元を貫く課題を「事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、既習の語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして会話を継続・発展させるにはどうすればいいだろう。」と設定した。この単元の学習を通して、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、情報や考えなどを理解したり伝え合ったりするコミュニケーション能力を高めていきたい。

本学級の生徒はこれまでオーストラリアのYeppoon中学・高校の生徒(中学1・2年までは日本語を必修科目として履修し、中学3年から高校3年までは選択科目として学んでいる)との遠隔授業を4回体験してきた。日本に興味をもち、来年は研修旅行で日本を訪れる予定の生徒たちに日本や地域の文化、特徴的なことについて紹介したり、質問に答えたりすることは主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う上で有効な活動だと考える。

本時は次の2点に留意して指導する。

- ① 相手が日本で何をしたいかなど事前の情報を整理し、見どころや活動などをやり取りを通して勧める。
- ② 自分が伝えた内容に対する相手からの質問を受けて対話を継続・発展させることで円滑なコミュニケーションをめざす。

#### 4 単元の目標

- ・日豪のお互いの文化について考えを深めるために、文化や自然について説明し、自分の気持ちを整理し簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。

#### 5 評価規準

知識・技能	〈知識〉三単現，代名詞，疑問詞を用いた文の構造を理解している。 〈技能〉身近な人や物について正しく伝える技能を身につけている。
思考・判断・表現	日豪お互いの文化について考えを深められるように、自分の町や日本の文化について、自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	日豪お互いの文化について考えを深められるように、自分の町や日本の文化について、自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。

#### 6 本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい生徒の姿
これまで (4/6)	紹介したい日本の文化や特徴について情報を整理して正しく伝える。 オーストラリアの生徒の説明を聞いた後、5W1Hを使ってやり取りを継続する。(やり取り)	○三人称単数現在形，代名詞，疑問詞を使った文の構造や文法を理解している。 ○質問したり，説明をしたりする技能を身につけている。
本時 (5/6)	遠隔授業 これまで学習した文法事項を使って，オーストラリアの生徒とお互いの国や地域の文化，特徴について伝えたり，聞いたりした内容についてやり取りをする。	○自分の町や興味のある日本の文化をオーストラリアの生徒に伝えるために，内容を整理して，自分の考えや気持ちを伝え合っている。 ○相手からの質問や意見に即興で対話を継続・発展させようとしている。
次時 (6/6)	遠隔授業を通してわかった内容についてALTとやり取りをする。	○聞き取ったり，質問に答えてもらったりして分かった内容を簡単な語句や文を用いて他者と伝え合うことができる。
単元のゴール	日豪のお互いの文化について考えを深めるために，文化や自然について説明し，自分の気持ちを整理し簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。	○状況を説明したり，気持ちを伝えたりするために語句や文法を正しく使って表現することができる。 ○事実や自分の考え，気持ちなどを整理して会話を継続・発展させることができる。
後日	パフォーマンステスト	

## 7 本時の展開

### (1) 本時の目標

オーストラリアの生徒とお互いの文化について考えを深めるために、遠隔授業を通して説明したり、「やり取り」をしたりすることができる。

### (2) 本時の言語活動の評価

#### 採点の基準

「思考・判断・表現」について、以下の2つの条件のどちらも満たすものを「a」、1つを満たすものを「b」、1つ未満のものを「c」とする。

条件1：自分の町や興味のある日本の文化をオーストラリアの生徒に伝えるために、自分の考えや気持ちなどを整理して述べている。

条件2：相手からの質問や意見に即興で対話を継続・発展させようとしている。

生徒のやり取り例( JS:本校生徒 AS:オーストラリアの生徒)

JS: Hello. I have a question. Which do you like, outdoor activity or indoor activity?

AS: (Australian students answer.)

JS: Thank you. Many of you like outdoor activities. That's nice.

In our town, we have beautiful nature.

You can enjoy hiking, climbing, and camping in Sandankyo Gorge.

JS: It's a beautiful National Park. We went there in September and had a lot of fun.

It's very famous. In fall the tree leaves become red, yellow and purple.

AS: Where is it? Is it far?

JS: It's 30 minutes from our school. Last month we went there to clean the paths as a volunteer project.

AS: Volunteer project?

JS: Yes. All students go to a sightseeing spot in our town and clean up the place for visitors.

JS: We want to welcome people from many places.

Please come and visit our town.

AS: Thank you.

(3) 学習の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
20分	1 Greetings	○オーストラリアのクイーンズランド州との時差（1時間）を考慮してあいさつをする。	<p>【思・判・表】</p> <p>日豪お互いの文化について考えを深められるように、自分の町や日本の文化について、自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。</p>
	2 本時のめあて		
<p>“Let’s talk about our culture in English.”</p> <p>お互いの国や地域の文化，特徴的なことについて伝え合おう</p>			
3 Group Talk	2つのグループに分かれて交流する。 (3年教室と2年教室)	○「やり取り」を継続させるために伝えたい内容を整理し、相手の反応を予想しておくことが大切であることに気づかせる。	
25分	4 Q&A	○効果的に <b>reaction words</b> を使ったり、深掘り質問をしたりするなどして会話を継続させる。	
	5 Sharing	○交流を通して初めて分かったこと、驚いたこと、よく理解できなかったことをメモし、どの順番で他のグループに伝えたらよいか考えさせる。	
5分	6 まとめ，ふりかえり	○次時は他学年に伝える活動をすることを知らせる。	

(4) 遠隔授業について

本校生徒は 50 分授業のうち、前半を交流の時間とする。Yeppoon 高校は 70 分授業のうち、残り 20 分を交流の時間とする。

交流の対象学年は高校 1 年生の日本語履修の 7 名である。ブレイクアウトルームを 2 つ設置し、それぞれで交流した内容を授業の後半 25 分で他方のグループに伝える Sharing の時間を設ける。

